ウズウズカレッジ プログラマーコース

その他の制御構文

▼Sample1_13_1.java (4~18行目)

```
//break文のしくみ←
String print1 = "" ;←
for(int i = 0; i < 10; i++){\leftarrow
   if(i == 7){←
   ^ break; ← •
   }쓴
                      break以降の
   }쓴
System.out.println("print1:" + print1);
```

≪break≫

□break文は処理を中断し、繰り返しブロックを抜ける効果を持ちます。 「break;」と書けばそれで実行されます。 if文などと組み合わせ、ある条件を満たしたら繰り返し処理を抜け たい場合に使用します。

▼Sample1_13_1.java(22~36行目)

```
//continue文のしくみ←
String print2 = "" ;←
for(int i = 0; i < 10; i++){
  if(i == 7){←
   ^ continue; ←
  -}←
   print2 += i + " " ; ←
}쓴
System.out.println("print2:" + print2);
 C:\WorkSpace>java Sample1_13_1
```

≪continue≫

□continue文は繰り返し処理を中断し、次の繰り返し処理に移る効果を 持ちます。

「continue;」と書けばそれで実行されます。 if文などと組み合わせ、ある条件を満たしたら繰り返し処理を抜け たい場合に使用します。

▼Sample1_13_2java(19~29行目)

```
System.out.println("▼ラベル (break文)
←
uzuz1:for(int i = 1 ; i < 6 ; i++){←
^ for(int j = 1 ; j < 6 ; j++){←
^ if(i * j > 15){←
^ ^ System.out.println("□□▼頂
^ ^ ^ System.out.println("□□i:
^ ^ ^ break uzuz1;←
^ }←
^ }←
```

▼Sample1_13_3java(17~27行目)

≪ラベル≫

□ループがネストされている状況で内側だけでなく外側のループも 抜けたいようなときは**ラベル**を用います。

ラベルは中断/継続したいループ処理に「**ラベル名:」を付与することで使用可能になります。**

また、ラベル名は任意で決めることが可能です。

▼Sample1_13_4.java (6~33行目)

```
int num = Integer.parseInt(args[0]); //コマンドライン引数で受け取った値↔
switch (num){←
                                                    num == 1が
                                                    trueの場合
   case 1:←
   ^ System.out.println("非常に不満");↩
   ^ break: ←
                                                    num == 2が
                                                    trueの場合
   case 2:←
      System.out.println("少し不満");←
   ^ break; ←
                                                    num == 3が
   case 3:←
                                                    trueの場合
      System.out.println("どちらとも言えない"); ←
      break; ←
                                                    num == 4が
   case 4:←
                                                    trueの場合
      System.out.println("少し満足");←
      break;←
                                                    num == 5が
   case 5:←
                                                    trueの場合
      System.out.println("大変満足"); ↩
      break; ←
   default:←
      System.out.println("満足度は1~5で答えて下さい");↩
      break; ←
                                               どのcaseにも
                                            あてはまらない場合が
```

≪switch文≫

□switch文は**多分岐構文**で使用され、以下のように記述します。 ()内の変数の値と合致するマジックナンバーを持つcase文に処理 が移動し、「break;」が実行されることでswitch文を抜けます。 合致するマジックナンバーが存在しなかった場合、default文を書いて いればそちらに移動します。(default文は省略も可能)

```
switch (変数) {
    case マジックナンバー:
    処理;
    break;
    default:
    処理;
}
```

□switch文の変数で使用できる型は「byte」「short」「int」「char_ のいずれかです。

なお、Javaのバージョン7以降では「String」も使用可能です。

```
<演習:Ex1_13_1>
```

```
<演習:Ex1_13_1>←
以下、どのようなデータが画面に表示されるでしょう?↩
※プログラムで実行はしないで、紙とペンだけで考えましょう。↩
(1)←
outside1:←
for(int i1 = 1; i1 \leftarrow 9; i1++){\leftarrow
^ String disp1 = "";←
^ for(int j1 = 1; j1 <= 9; j1++){←
^ if(i1*i1 == 54){←
  ^ ^ break outside1;←
 ^ }←
  ^ disp1 = disp1 + i1*j1 + " ";←
   System.out.println(disp1); ←
(2)←
outside2:←
for(int i2 = 1; i2 \le 9; i2++){\leftarrow
^ String disp2 = "";←
^ for(int j2 = 1 ; j2 <= 9 ; j2++){\leftarrow
^ if(i2*j2 == 54){←
   ^ ^ continue outside2;←
  ^ }쓴
   ^{\land} disp2 = disp2 + i2*j2 + " "; \leftarrow
   }←
   System.out.println(disp2); ←
```

<演習:Ex1_13_2>

```
2 コマンドライン引数で受け取った整数 (A型:1, B型:2, O型:3, AB型:4) に応じて、←
3 以下の実行結果を表示するプログラムを作成してください。←
4 ただし、switch文を必ず使用してください。←
5
  (A型)が入力された場合 : "あなたは几帳面な性格の方ですね?"←
  (B型)が入力された場合: "あなたはマイペースな性格の方ですね?"←
  (0型)が入力された場合 : "あなたは大雑把な性格ですね?"←
  (AB型)が入力された場合: "あなたは天才肌な方ですね? "←
               :"数字の1~4で答えてください"←
  上記以外
11
12
13 public class Ex1_13_2 {←
14 ^
    public static void main (String[] args) {←
16 ^
17 ^
18 ∧ ∧ ←
19 ^
20 ∧ ∧ ←
   _}←
22
```